

# 堺

## さくらいじんじゃ 櫻井神社

泉北高速鉄道の泉ヶ丘駅と梶・美木多駅の間、泉北ニュータウンの南、堺市南区片蔵(旧上神谷村)に位置する。

飛鳥時代、推古天皇5年(597)に創建されたといわれる。上神谷(ニワダニ)八幡宮とも称せられている。南北朝頃、付近の武士の尊崇によるところが大きく、建武4年(1337)上神城主が社殿を造営したと社伝には伝えられ、神域廣大にして社は隆盛を極めていたが、天正5年(1577)信長の根来攻めの兵火にかかり、拜殿を残すのみとなり一時荒廃した。

その後、天正16年(1588)より享保16年(1731)にわたる再建によって、旧観に復旧した。江戸時代以前までは本殿、拜殿の外に阿弥陀堂、神宮寺、奥院、鐘楼などがあったようである。

拜殿は桁行5間・梁間3間、切妻造り本瓦葺きで、まづ目につくのは、瓦葺きの屋根と二重虹梁蛭股飾りである。中央の一間を土間として割拜殿の



拜殿



拜殿中央



拜殿妻面



こおどりの面

所在地：堺市南区片蔵 645  
最寄駅：南海バス「桜井神社前」からスグ  
拝観自由・無料

形式になっている。祭礼時には中央の土間に両側から部戸(しとみど)と呼ばれる建具を下ろして床にし、拜殿全体が床の間になる。白壁と朱塗りの構造材が簡潔な架構を表わし、美しく感じられる。

神社建築で、このように古風な仏堂的要素をもつものはほかに例がないようである。当初、中央の土間部分も板の床が張られていたとか縁がついていたなど、色々建築的に考察されているようである。鎌倉時代初期の建築様式とされ、堺市内では唯一の国宝に指定されている。

10月の秋祭に奉納される神事舞踊「上神谷のこおどり」は、雨乞いの踊りから始まったとされ、拜殿前で鬼や天狗を中心に鉦や太鼓で踊る古典芸能であり、国の無形文化財に指定されており、室町時代に完成された風流の面影をよく残している。

泉北丘陵には、他に多治速比売神社、上神谷の妙見さん(感応寺)、法道寺などがあり、秋に散策されてはいかがか。(木村小太郎)